



南極観測隊経験者に インタビュー



38 次越冬、48 次・56 次夏

ひらさわ なおひこ
平沢尚彦さん

国立極地研究所 気水圏研究グループ助教

(2016 年 7 月現在)



南極では、どんな研究やお仕事をしたのですか？

南極では高層気象ゾンデ観測、降雪観測、無人飛行機を用いた大気観測、人工衛星データの受信、国内ではコンピュータを使って気象数値モデルの計算をしています。これらの活動を通して、地球温暖化が進行する中で南極域の気候がどのように変化していくのを研究しています。その結果、南極の外側の暖かい空気を南極氷床上に送り込んで 2 日間で 40℃ も気温が上がる昇温現象^{しょうおん}や、南極周辺の海洋上から水蒸気を集めて南極氷床上に大雪を降らせる仕組みがあることが分かりました。



気象ゾンデ放球直前 (56 次隊の S17 拠点にて)



初めて南極におり立ったときの感想をおしえてください。

私の初めての南極は内陸部にあるドームふじ基地で越冬観測をするためでした。多くの隊員とは異なり、昭和基地に行くことなく、いきなり南極氷床の上の S16 という地点にヘリコプターで渡りました。ヘリコプターが去った後は 10m/s もの地吹雪が吹く見渡す限りの雪原で、ただ、寒さに耐えました。「大変なところに来た」と。そのうち、自衛隊の人々とともにスコップで雪ブロックを積み上げ、風よけを作ったのが最初の仕事でした。



一番印象に残ったこと・一番楽しかったことはなんですか？

ドームふじ基地ではわくわくすることがたくさんありました。ドームふじに向かう雪上車のスピードを 9km しか出さないこと。3 週間ぶりのお風呂では足の裏の皮がいつまでも剥けること。気温がマイナス 80℃ の外で寝転んで全天のオーロラを見たこと。雲ひとつない青空や星空から雪が降り続けていたこと (ダイヤモンドダストです)。呼吸で吐いた息がシュワツと音を立てること (息に含まれている水蒸気が一瞬にして凍る音、と思う)。ソフトボールを打った金属バットがへこんだこと。ドームふじを中心に半径 1000km の円を描きます。人類 60 億人の中でその時その中に住んでいる人は私たち 9 人だけだったこと。あなたも行ってみませんか？！